

# 平成28年度病害虫発生予報第1号

平成28年4月6日  
鳥取県病害虫防除所

## 予報の概要

| 区分   | 農作物名            | 病害虫名                               | 発生時期                              | 予想発生量                                |
|------|-----------------|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 普通作物 | イネ              | 苗立枯病<br>ばか苗病<br>イネシンガレセンチュウ        | —<br>平年並<br>平年並                   | 平年並<br>平年並<br>少ない                    |
|      | オオムギ            | 赤かび病<br>うどんこ病<br>網斑病               | 早い<br>—<br>—                      | 平年並<br>少ない<br>やや多い                   |
| 果樹   | ナシ              | 黒斑病<br>黒星病<br>赤星病<br>ハダニ類<br>カメムシ類 | やや早い<br>やや早い<br>やや早い<br>やや早い<br>— | やや少ない<br>やや多い<br>やや多い<br>平年並<br>やや多い |
| 野菜   | ラッキョウ           | 灰色かび病                              | 平年並                               | 平年並                                  |
|      | ネギ              | べと病                                | —                                 | 多い                                   |
|      | スイカ、メロン、<br>タバコ | アブラムシ類                             | やや早い                              | やや多い                                 |

## 気象予報（抜粋）

1か月予報（4月2日～5月1日：3月31日、広島地方气象台発表）

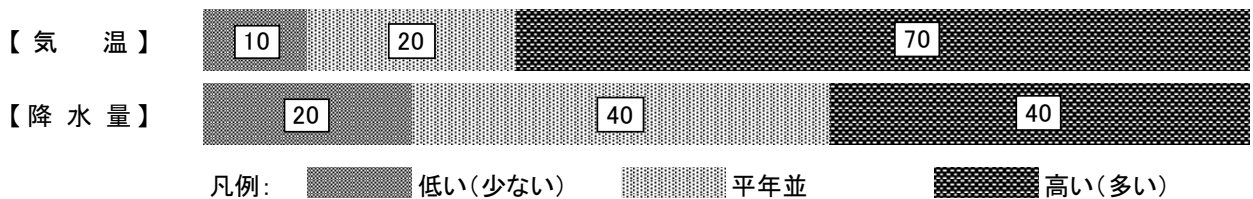
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

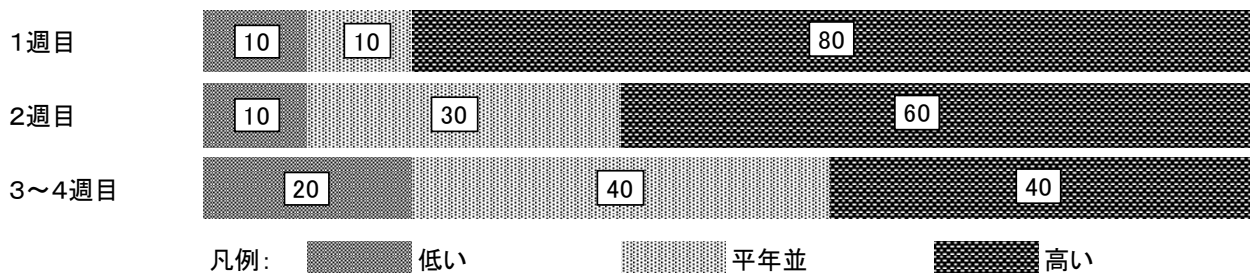
向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### <向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



### <気温経過の各階級の確率(%)>



## 普通作物

### [イ ネ]

#### 1 苗立枯病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア 苗立枯病の予防防除が広く普及している。  
イ 向こう1か月の気象予報から発生量は平年並と予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は困難であるため、予防防除を徹底する。  
イ 育苗環境を清潔に保ち、育苗中の温度管理及び水管理に注意する。  
ウ ムレ苗が発生した場合には、タチガレエースM液剤の500～1,000倍液又はタチガレン液剤の500～1,000倍液を箱当たり0.5リットルかん注し、夜間の保温と昼間の遮光に努め、苗の回復を図る。移植可能であれば、早めに本田に移植する。

#### 2 ばか苗病

##### (1) 予報の内容

発生地域 県内全域  
発生時期 平年並（育苗期）  
発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

前年の発生は平年並であったため、本年用種子の保菌率は平年並と推測される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。  
イ 比重選及び種子消毒を徹底する。  
ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。  
エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりを持たせる。また、薬液の温度が10℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、最初の3日間は水の交換を行わない。水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは、静かに換水する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

#### 3 イネシンガレセンチュウ

##### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 少ない

##### (2) 予報の根拠

前年の本種による葉先枯れ症状の発生は少なかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。
- イ 比重選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本種防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。なお、薬剤については、病虫害防除指針などを参考にする。

[ム ギ (オオムギ)]

1 赤かび病

(1) 予報の内容

|      |      |
|------|------|
| 発生地域 | 県内全域 |
| 発生時期 | 早 い  |
| 発生量  | 平年並  |

(2) 予報の根拠

- ア 10月下旬播きの二条オオムギは、すでに穂揃い期を迎えている。また、11月上旬播き以降の二条オオムギ、六条オオムギともに出穂期は早いと予想されている。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 六条オオムギは、二条オオムギに比べて本病が発生しやすいので注意する。
- イ 発病後の防除は困難であるため、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による予防防除を行う。防除適期は、二条オオムギでは穂揃い期の10日後ころ、六条オオムギでは開花を始めた時期～開花期、及びその7～10日後である。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容

|      |      |
|------|------|
| 発生地域 | 県内全域 |
| 発生量  | 少ない  |

(2) 予報の根拠

二条オオムギでは本病の抵抗性品種が普及していることから、発生量は少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生のおそれがあるので注意する。
- イ 発生がみられる場合には、病虫害防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

3 網斑病

(1) 予報の内容

|      |      |
|------|------|
| 発生地域 | 県内全域 |
| 発生量  | やや多い |

(2) 予報の根拠

これまでの気象推移及び向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生するおそれがあるので注意する。
- イ 発生がみられる場合には、病害虫防除指針などを参考にして薬剤による防除を行う。

## 果 樹

### [ナ シ]

#### 1 黒斑病

##### (1) 予報の内容

- 発生時期 やや早い
- 発生量 やや少ない

##### (2) 予報の根拠

- ア 平成27年11月下旬～12月上旬に行った越冬菌密度調査の結果、平年と比較して短果枝の病芽率、一年枝上の病枝率はやや低く、一年枝上の枝病斑数はやや少なかった。
- イ ナシの生育は平年と比較してやや早い。
- ウ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量はやや少ないと予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 開花前～人工交配終了後に、伝染源となる病芽の除去を徹底する。
- イ 開花期に病原菌が雌しべに侵入することがあるので、開花前～人工交配直後の薬剤防除を徹底する。
- ウ 薬剤は開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル）500倍液など、人工交配終了後にフロンサイドSC2，000倍液またはベルコートフロアブル1，500倍液など、落花期に有機銅水和剤（キノンドーフロアブル又はドキリンフロアブル）1，000倍液などを散布する。

#### 2 黒星病

##### (1) 予報の内容

- 発生時期 やや早い
- 発生量 やや多い

##### (2) 予報の根拠

- ア ナシ園における越冬病芽調査の結果によると、腋花芽の病芽率は平年に比べやや高かった。
- イ 昨年秋期における発生がやや多かったことから、越冬伝染源となる罹病落葉もやや多いことが見込まれる。
- ウ ナシの生育は平年と比較してやや早い。
- エ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量はやや多いと予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

- ア りん片の脱落の悪い腋花芽は芽基部病斑を形成しやすく、本病の伝染源となるので、これらを開花始め～落花期に見回って切り取っておく。
- イ 開花期に降雨が続くと多発しやすいので、開花前～落花期の防除を徹底する。

ウ 薬剤は、開花始めにアンビルフロアブル1, 500倍液など、交配終了後にチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液など、落花期にEBI剤（スコア顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなど）4,000倍とチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍の混用液などを散布する。

### 3 赤星病

#### (1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

#### (2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場のビヤクシン上における冬孢子堆の形成量は、ほぼ平年並であった。

イ 4月2日現在、伝染源となるビヤクシン上の冬孢子堆の成熟度は約20%であり、平年に比べやや進んでいる。

ウ ナシの生育は平年と比較してやや早い。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量はやや多いと予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹園の近くにビヤクシン類が植栽され、4月に雨が多い場合、発病しやすくなる。

イ 近年、生け垣などにビヤクシン類が植栽されている地域では、本病の発生がやや目立っている。

ウ 冬孢子堆の膨潤と小生子の飛散最盛期は、例年、満開前後の降雨直後となるので、この時期の防除を徹底する。

エ 薬剤は開花始めにアンビルフロアブル1, 500倍液など、交配終了後にチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍液など、落花期にEBI剤（スコア顆粒水和剤、オンリーワンフロアブルなど）4,000倍とチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）500倍との混用液などを散布する。

オ 5月以降に葉の発病がみられるときは、EBI剤（スコア顆粒水和剤4,000倍液、オンリーワンフロアブル4,000倍液、アンビルフロアブル1,500倍液など）を追加散布する。

### 4 ハダニ類

#### (1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

#### (2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は、ナミハダニが平年並、カンザワハダニ及びクワオオハダニは平年と比較して少ない。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期はやや早く、発生量は平年並と予想される。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ハダニ類の発生が認められた場合は、カネマイトフロアブル1, 500倍液

などを単用で散布する。

## 5 カメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量 やや多い

### (2) 予報の根拠

クサギカメムシの越冬成虫数（ベニヤ板トラップ、県下9地点調査）は、トラップあたり1.6頭（前年：0.4頭）で前年より多く、春期の発生量はやや多いと見込まれる。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 山間地及び民家近くの果樹園で例年発生が認められる園では、春期の被害が予想されるため、成虫の飛来を注意して観察する。

イ ナシ園への飛来が認められた場合は、直ちにジノテフラン水溶剤（アルバリン顆粒水溶剤又はスタークル顆粒水溶剤）2,000倍液などを追加散布する。

## 野 菜

### [ラッキョウ]

## 1 灰色かび病

### (1) 予報の内容

発生時期 平年並  
発生量 平年並

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬現在、県東～中部の現地調査ほ場における発生量はほぼ平年並であった。

イ 本病は白色疫病の発生が多いと発病が増加するが、本年の白色疫病の発生は平年に比べ、やや少なかった。

ウ 本病は4月に高温多雨で、5月に低温多雨の条件で発生が増加しやすい。向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 5月上旬まで、ロブラール水和剤1,000倍液、カンタスドライフロアブル1,500倍液、ベルコートフロアブル1,000倍液、フロンサイド水和剤2,000倍液、セイビアーフロアブル20の1,000～1,500倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを輪番で散布する。

イ 降雨後には、枯れた葉の病斑上に多数の分生子を形成するので、降雨後の防除を徹底する。

ウ 茎葉が過繁茂となったラッキョウは、株元に薬液がかかりにくい状態となっているので、丁寧に散布する。

### [ネギ]

## 1 ベと病（平成28年3月23日付けで平成27年度病害虫発生予察注意報第2号を発表）

(1) 予報の内容

発生量 多い

(2) 予報の根拠

ア 3月第6半旬以降、発病に好適な気象条件が続いているため、県西部の春ネギを中心に発病が急激に増加している。

イ 本病は、15～20℃程度で降雨が続く好適発生条件になると、発病が急速に広がる傾向があるため、予防防除を徹底する。気象予報から、引き続き発病の増加が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

平成27年度病害虫発生予察注意報第2号を参照。

[スイカ・メロン]

1 アブラムシ類

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場（東伯郡北栄町、露地ほ場）における黄色水盤への有翅虫の初飛来は、3月31日に確認され、平年に比べてやや早い。

イ 3月下旬現在、現地調査ほ場においてアブラムシ類の発生はみられていない。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気部分や出入口には防虫ネット被覆を行い、アブラムシ類の侵入防止に努める。

イ 葉裏を注意して観察し、初期防除を徹底する。

ウ スイカのハウス栽培では交配前にミツバチへの影響のないチェス顆粒水和剤5,000倍液を散布し、トンネル栽培ではつる引き誘引時期にチェス顆粒水和剤5,000倍液、交配前にバリアード顆粒水和剤4,000倍液を散布する。

エ メロンでは、チェス顆粒水和剤5,000倍液、バリアード顆粒水和剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤8,000倍液などを散布する。

[おしらせ]

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。**

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。( <http://www.famic.go.jp/> )

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260  
鳥取県病虫害防除所  
(TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp)  
もしくは  
鳥取県農業試験場環境研究室  
(TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係  
〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048  
鳥取県園芸試験場環境研究室  
(TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822)

※ 予報第2号の発表は、4月20日（水）の予定です。